

令和7年度三次市学力到達度検査結果分析及び指導改善計画

1 国 語

学年	【教科指導・学習に対する意識について】 教科学習及び教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題 ○これまでの取組の成果 ●課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組
第1学年	<p>○基礎問題正答率が、市・全国の正答率を上回った。</p> <p>○文章を書くことにおいて、目標値を上回った。</p> <p>○言葉の特徴や使い方に関する事項の正答率は、市・全国のえ正答率を上回った。また、漢字の読み・現代仮名遣いについて正答率は100%だった。漢字の読み書き・文法の知識が定着している。</p> <p>○①「国語の勉強は好きだ」②「国語の勉強をしたことで生活の中で役に立つと感ずることがありますか」の問いに100%が肯定的である。</p> <p>●「情報の扱い方に関する事項」は正答率0%と、特に課題が見られる。</p> <p>●「話すこと・聞くこと」において正答率33.3%であり、市・全国の正答率を下回った。</p> <p>●分からない言葉は辞書を引く生徒が33.3%である。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「情報の扱い方に関する事項」において、複数の資料を活用し、そこから読み取れることを資料の中から根拠を基にして文章化したり、説明したりする活動に継続して取り組み、情報活用能力の育成につなげる。 ・「話すこと・聞くこと」において、『必要に応じて記録しながら話の内容を捉える力』・『自分の考えや根拠が明確になるように、話の構成を考える力』が弱いため、スピーチなどの活動で話の内容をメモしながら聞いたり、自分の意図したことが伝わるように構成を工夫してスピーチ原稿を書いたりする活動に継続して取り組み、話す力・聞く力の育成につなげる。 ・分からない言葉について、辞書（電子辞書含む）などを使用し、言葉の意味を理解させる。
第2学年	<p>○「我が国の言語文化に関する事項」の正答率は市・全国の正答率を上回った。</p> <p>○漢字の読み（100%）、現代仮名遣い（80.0%）の正答率が高く、漢字の読み書き・文法の知識が定着している。</p> <p>○「文章を書く」ことにおいて、市・全国の正答率を上回った。</p> <p>●「情報の扱い方に関する事項」は正答率20%と特に課題が見られる。</p> <p>●「調べたことをもとにレポートを書く」ことにおいて、正答率は市・全国の正答率を下回った。</p> <p>●「国語の勉強をしたことで生活の中で役に立つと感ずることがありますか」の問いでは、否定的な回答が66.6%だった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「情報の扱い方に関する事項」において、複数の資料を活用し、そこから読み取れることを資料の中から根拠を基にして文章化したり、説明したりする活動を通して、情報活用能力の育成につなげる。 ・「調べたことをもとにレポートを書く」ことについては、資料から何が読み取れるかを文章化し、そのうえで自分の考えを条件にそって答えられるように、問いに合わせた答え方の練習を継続する。 ・実生活により近い学習課題を提示し、国語の学習が少しでも生活の中で役立つ実感を持たせられるよう指導する。
全体	<p>○漢字や文法、書く力についてはおおむね定着している。</p> <p>○「読むこと」においては、市・全国とほぼ同程度の力が身につけている。</p> <p>●情報を読み取ること・情報活用力について十分な力がつけられていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「知識・技能」について、漢字や文法など、定期的な復習を継続する。 ・文学的文章や説明的文章の読解の中で、辞書を使用して語句の意味を理解させる。得た語彙や言い回しなどの知識を使って自分の言葉で書いたり説明したりして表現させる。 ・複数の資料から情報を読み取る活動を行い、情報活用力を身につける。 ・「思考・判断・表現」については、文章の要約や条件に合わせた表現をしたり、自分の考えを交流したりする場を引き続き設定する。本文から自分の考えの根拠を引用させる活動を取り入れ、根拠をもとに自分の考えを書けるように指導する。

2 社会

学年	<p>【教科指導・学習に対する意識について】 教科学習及び教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題 ○これまでの取組の成果 ●課題</p>	<p>【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組</p>
第1学年	<p>○「知・技」「思・判・表」の数値がともに全国平均を上回った。</p> <p>○基礎の正答率が全国平均並みであった。</p> <p>●活用の正答率が全国平均並みであった。</p> <p>●「社会の勉強は好きですか」の質問に対しての肯定的評価の割合が全国平均を大きく下回った。</p> <p>●「社会の勉強をしたことによって、新聞やニュースに関心をもつようになりましたか」の質問に対しての肯定的評価が全国平均を大きく下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科の学習に主体的に取り組むことができるように、導入時の資料の提示を工夫したり、提示された資料を細かく分析することで、課題解決ができるような学習の進め方を取り入れたりする等、授業改善を行う。 ・授業の導入やまとめの活動で、新聞やニュースと教科書の内容を結び付けるなど、実社会と関連付けた学習活動を行う。
第2学年	<p>○基礎の正答率、全国平均を上回った。</p> <p>○「知・技」の正答率が、全国平均を上回った。</p> <p>○「社会の勉強をしたことによって、新聞やニュースに関心をもつようになりましたか」の質問に対しての肯定的評価が全国平均を上回った。</p> <p>●活用の正答率が、全国平均を下回った。</p> <p>●「社会の勉強は好きですか」の質問に対しての肯定的評価の割合が全国平均を下回った。</p> <p>●「社会を勉強したことによって、生活の中で役に立つと感ずることはありますか」の質問に対しての肯定的評価が全国平均を下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「思・判・表」の定着をはかるため、資料を読み取り、自分の考えを根拠を基に表現する活動を取り入れる。 ・各時代の特徴を、資料を用いて説明したり、表現したりする学習を通して、歴史の大きな流れを捉えさせる。
全体	<p>○基礎の正答率が1、2年生ともに全国平均を上回った。</p> <p>●「社会の勉強は好きですか」の質問に対しての肯定的評価の割合が1、2年生ともに全国平均を大きく下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科の学習が生活とどのように結びついているのか、最近の社会の出来事と関連付けて課題の提示することで気づかせる。 ・資料から読み取った情報を基に、自ら課題解決する授業方法を工夫する。

3 数 学

学年	【教科指導・学習に対する意識について】 教科学習及び教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題 ○これまでの取組の成果 ●課題	【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組
第1学年	○「正負の数の減法ができる」の正答率が市・全国を上回った。 ○「具体的な事象における数量の関係をとらえ、その関係を比例式で表すことができる」の正答率が市・全国を上回った。 ●「負の数の大小関係について理解している」の正答率が市・全国を下回った。 ●「基準をもとに、正負の数を使って利用者数の差を求める式を選ぶことができる」の正答率が市・全国を下回った。 ●「数量の関係を不等式で表すことができる」の正答率が市・全国を下回った。 ●「座標平面上の点の座標について理解している」の正答率が市・全国を下回った。 ●「問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか」の肯定的評価が市・全国を下回った。	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に既習事項の復習をする。 ・正答率の低い項目についての復習を行う ・計算の基礎基本を定着させるために、ドリル学習を行う。 ・本時のねらいに沿った復習プリントを作成し学力の定着につなげる。 ・必要に応じてICTを活用する。 ・生徒に、より理解しやすい解き方を交流させる場面を作る。
第2学年	○「証明の必要性と意味を理解し、正しい説明を選ぶことができる」の正答率が市・全国を上回った。 ○「三角形の合同条件について理解している」の正答率が市・全国を上回った。 ●「2つの文字式で、式を簡単にしてから数を代入して式の値を求めることができる」の正答率が市・全国を下回った。 ●「単項式の乗法と除法ができる」の正答率が市・全国を下回った。 ●「1次関数の式について、 x の増加量から y の増加量を求めることができる」の正答率が市・全国を下回った。 ●「数学の時間に、いろいろな考え方を発表しあうことは好きですか」の肯定的評価が市・全国を下回った。 ●「問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか」の肯定的評価が市・全国を下回った。	<ul style="list-style-type: none"> ・もろもろの意味理解について、数学用語を利用して学習させる前に、生徒がなじみやすい学習過程を経て、数学用語の定着や目的に合った計算の方法を理解させていく。 ・必要な場面に応じてICTを活用する。 ・計算の基礎基本の定着のため、ドリル学習を行う。 ・本時のねらいに沿った復習プリントを作成し学力の定着につなげる。 ・定期的に既習事項の復習をする ・生徒同士で、解き方を相談したり、交流したりすることができる場面を作る。
全体	●「問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか」の肯定的評価が1・2年ともに全国を下回っている	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の学習度合いや集団の様子も見ながら、個に応じた学習活動を取り入れ、解き方についての交流等の機会を作る

4 理 科

学年	<p>【教科指導・学習に対する意識について】 教科学習及び教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題 ○これまでの取組の成果 ●課題</p>	<p>【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組</p>
第1学年	<p>○「知・技」「思・判・表」の数値がともに全国平均を上回った。</p> <p>○「理科の勉強は好きですか」の質問に対しての肯定的評価の割合が全国平均を大きく上回った。</p> <p>●「エネルギー」の領域の数値が全国平均を下回った。</p> <p>●「理科の勉強で、わからないことや興味、関心をもったことについて自分から調べようとしていますか」「自然や理科についての読み物や図鑑、テレビ番組などをよく見えていますか」「理科の勉強をしたことで、生活の中で役に立つと感じることはありますか」の質問に対しての肯定的評価の割合が低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の導入で身近な例を取りあげたり、単元の最後に実生活と結びつくような課題を提示したりするなどし、理科と実生活が結びつくような指導を行う。 ・授業で調べる活動を適宜取り入れ、調べ方を習得させる。また、レポート課題などを提示し、調べることを習慣化させる。
第2学年	<p>○「粒子」の領域の数値が、全国平均を上回った。</p> <p>○「理科の勉強は好きですか」と「理科の勉強で、実験や観察をすることは好きですか」の質問に対しての肯定的評価の割合が全国平均を上回った。</p> <p>●「知・技」「思・判・表」の数値がともに全国平均を下回った。</p> <p>●「理科の勉強で、わからないことや興味、関心をもったことについて自分から調べようとしていますか」の質問に対しての肯定的評価の割合が全国平均を下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「知・技」の定着をはかるため、授業の導入部分で復習時間を設ける。 ・多くの生徒が「理科の勉強が好きである」という結果であるため、スモールステップで授業を行い、成功体験を増やすことを通して次時の学習の意欲につなげる。 ・ねらいの焦点化を行い、授業のゴールを明確にする。
全体	<p>○「理科の勉強は好きですか」の質問に対しての肯定的評価の割合が1、2年生ともに全国平均を大きく上回っている。</p> <p>●「理科の勉強で、わからないことや興味、関心をもったことについて自分から調べようとしていますか」の質問に対しての肯定的評価の割合が1、2年生ともに全国平均を下回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1、2年生ともに、理科の授業について肯定的であるため、生徒の興味を惹くような導入や問いを考える。 ・観察・実験を積極的に行い、様々な事物や現象について、自ら問題（課題）を見いださせ、見通しをもって学習活動に臨める場を設定する。 ・授業で調べる活動を適宜取り入れ、調べることを習慣化させる。

5 英語

学年	<p>【教科指導・学習に対する意識について】 教科学習及び教科学習に対する意識調査から見られる生徒の姿及び課題 ○これまでの取組の成果 ●課題</p>	<p>【教科指導工夫改善の具体】 課題に対する具体的な取組</p>
第1学年	<p>○「対話を聞き、対話の概要を捉えて、適切に応答している(そこで何をするかたずねられて)」の問いの正答率が高かった。</p> <p>○「対話文を読み、文構造や文法事項を理解している (be 動詞の疑問文・疑問詞 who・代名詞)」の問いの正答率が高かった。</p> <p>○「英語の勉強をしたことで、生活の中で役に立つと感じることはありますか」の質問に対しての肯定的評価が全国平均を上回った。</p> <p>●「絵を適切に表している英文を聞き、その内容を理解している(持っているもの)」「対話文を読み、文構造や文法事項を理解している(三単現)」の問いの正答率が低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の本文等を使用し、内容を理解できているか、繰り返し確認する。 ・教科書の本文を繰り返し音読することで、重要表現等のフレーズをインプットさせる。 ・「書くこと」にも課題が見られるので、英作文の力をつけるために、「書く」活動は定期的に行う。
第2学年	<p>○「対話を聞き、対話の概要を捉えて、適切に応答している(日曜日はどうかとたずねられて)」の問いの正答率が全国平均を上回っている。</p> <p>○「対話を読み、対話の流れと資料から、適切な内容を判断している」の問いの正答率が全国平均を上回っている。</p> <p>●「文の語順を理解し、正確に書いている(現在進行形の疑問文・疑問詞 which の文)」の問いの正答率が低かった。</p> <p>●「英語の勉強は好きですか」の質問に対しての肯定的評価が低かった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・帯活動の時間を活用し、スマールトーク等で「聞く」「話す」活動の充実を図る。 ・教科書の本文等を使用し、内容を理解できているか、繰り返し確認する。 ・教科書の本文を繰り返し音読することで、重要表現等のフレーズをインプットさせる。 ・「書くこと」にも課題が見られるので、英作文の力をつけるために、「書く」活動を定期的に行う。
全体	<p>○1・2年生ともに、ほとんどの生徒がALTの先生に何とか英語で会話しようとする態度が見られる。</p> <p>●1・2年生ともに、1・2年生ともに、「文の語順を理解し、正確に書いている」の問いに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の導入の工夫やALTの先生に、部活動への参加等、授業外でも積極的に生徒と関わる時間を持ってもらい、生徒の英語学習に対する興味、関心、意欲をさらに高めていく。 ・「聞くこと」「話すこと」「読むこと」「書くこと」の活動をバランスよく行う。